

# 博士課程教育リーディングプログラム 平成23年度プログラム実施状況報告書

採 択 年 度	平成23年度		
プログラム名	法制度設計・国際的制度移植専門家の養成プログラム	申請大学長名	濱 口 道 成
申請大学名	名古屋大学	プログラム責任者名	鮎 京 正 訓
申 請 類 型	オンリーワン型	プログラムコーディネーター名	松 浦 好 治

## <プログラム進捗状況概要>

### 1. プログラムの目的・大学の改革構想

基本コンセプト：「アジアを理解し、日本が説明でき、多様な文化的背景をもったリーダーたちと協力して組織を作り、社会運営の基礎になる法制度・社会制度を設計し、制度移植を「施工管理」し、制度を機能させることができる人材」を育成すること。

日本は1990年代以降、アジア諸国を中心に法改革・社会改革支援を積極的に行ってきた。その背景には、日本の社会運営能力に対する高い国際的評価（とくにアジアの漢字文化圏）がある。日本のリーダーは、今後ますますアジアの中で存在感を高め、国際的な貢献をすることを期待されている。

日本の法・政治学系の人材は、問題分析・整理、組織統括、社会運営、紛争処理の面で能力を発揮してきた。本プログラムは、この種の能力を日本/外国という仕切りにとわれることなく世界を自由に往来して発揮できる人材を「制度の国際移転というユニークな現場」（法整備支援プロジェクトなど）を本格活用して育成しようとするものである。

社会改革や法改革は、法典や制定法を作るだけで実現できるわけではない。各社会の仕組、政治、歴史文化、宗教、担い手となる人材の動員などに関する総合的な理解と深い洞察があって初めて、有効な社会改革や法改革を構想し、実現することができる。アジアに貢献できるリーダーは、アジアを多角的に理解できる能力を持たなければならない。しかも、そのリーダーは、日本をきちんと説明できる能力を持たなければならない。なぜなら、法整備支援の現場では、つねに相手国のリーダーや関係者に対して「なぜ、日本では、こうしているのか」をコンパクトに説明しなければならないからである。

アジアを知り、日本を知ることは、一人ではできない。改革支援も一個人の作業ではない。日本の経験と知恵をアジアのために活用できるリーダー

には、多様な文化的背景をもったリーダーたちと組織を作り、複数の外国語を通して、円滑なコミュニケーションをして、優れた提案を限られた時間でまとめ、組織を導くアイデアを提供できる能力が求められる。

本プログラムは、日本人学生と留学生が長期的に協働する実践的な教育研究の現場を構築し、制度の国際的移転に貢献できるリーダー群を国際的な研究・教育協力で、育成しようとするものである。

## 2. プログラムの進捗状況

本年10月からの学生受入を目標にして、各種の準備を進めている。

海外の大学との協力関係の強化は、順調に進んでいる（関係各国からの関係者の招聘、訪問による具体的な協力関係の確認など）。

英文募集要項は、ほぼ完成の状態にあり、ほどなく公表できる段階である。

コースワークの設計（必修科目等の確定）は、予定通り進めており、必要な規定改正を5月中に行う。中国や韓国関係のデータベースの購読契約も完了し、教育研究資源の充実を進めている。

本プログラムを運営するための事務局体制の整備、施設の整備は若干遅れ気味ではあるが、進んでいる。

教育研究を担当する専門家の任用に関する作業を進めており、2週間程度で世界から専門家を招くプランについては、各国から適切なプランであるという評価を受けている。

今年度の予算執行計画を立案し、カリキュラム編成支援、シラバス整備などのIT環境整備を進めている。